

## 花田芳郎

元スタッフ（サンセット1998〜2002年）

現在は野北の「御飯屋おはな」店主

いい波立っとなつたぜ！

花田、どこにおつたとや？

### 冬の海、温かいシャワーの出会い

城南区の油山に住んでいたんです。高校生のときはバイク好きでしたね。暴走族みたいのとは違うんですよ。ヤンチャしてたわけじゃなくて、オタクの要素が強いかな？ 古いバイクが好きで、20歳代とか年上の人からバイクの話聞くのが大好きでしたね。親から買ってもらったホンダのCB50に乗って、どこへでも行けると思っていました。九州一周したこともあります。その後、CB50は廃車になっちゃいましたけど（笑）。

18ぐらいの時、サーフィンにハマったら、さつきと乗ってたバイクを売り払っちゃいました。バブル弾けた後で、僕らの世代はサーフィンってそんなに流行ってなかったんだけど、なんだかビビッとさっちゃったんですね。友だちを無理やり誘って城南区からスクーターで二見ヶ浦まで通ってました。何も知らなかったんで、ここらへんまで来ればサーフィンやれそうだったってことで。いっしょに行ってた友だちは、だんだんサーフィンから離れていって、僕だけ1人で通ってました。友だちいなくても、海に浮いてるだけで楽しかったなあ。

真冬にサーフィンしてた時、「かわいそうだ」と思ってもらえたんでしょうね。「シャワー浴びていけよ」とか声をかけてくれたのが林さんだったんですよ。お金がないのに温かいシャワー浴びさせてもらって、ほんと、うれしかったです。

それで僕、すっかり「サンセット」に居着いちゃったんですね。皿洗い手伝ってご飯食べさせてもらったりとか。

その頃、1997年くらいでしたかね。「サンセット」がオープンして7、8年だったと思います。まだ掘つ建て小屋だった時代です。初めて「サンセット」を見たときは二階建てでデッキがありました。通っているうちに、僕、ホテルを辞めてから何も仕事していなかったんで、林さんから「夏、バイトに来ないか？」と誘われて働き始めました。と言っても、働きに行つてるといふより遊ばせてもらつてるといふ感じですかね。時給は安かったけど、毎日「サンセット」へ行つてサーフィンしたり仕事したりするのが楽しかったんです。

## 誰も行かない場所を求めてくる人たち

僕は調理の方を手伝っていました。自分も含めて変わりもののスタッフばかり働いていて、ちょっととした更生施設みたいでしたね。スタッフも個性的だったけど、お客さんもみんな変わった人たちばかりでした。夏場は普通のお客さんも来るけど、秋から春まで、お客さんはサーファーしかいなくて、それも誰も行かない場所を求めて集まってくるような人たちばかりでした。いろんな職業のサーファーが来ていて、有名な医者さんとかもいました。「サンセット」は、みんなの秘密の場所だったんでしょうね、人目にも気にせんでいいし。

みんな僕よりも年上の人たちで、各方面の面白い人たちが集まってきたんで、いろいろ大事なことを教えてもらいました。「∞歳まで人生の指針とかなくて。なんとなく、社会人になったら週6日働いて…みたいなイメージだったんですが、お客さんたちを見ると、大人になつてもこんな生き方があるんだなあって思いました。仕事はちゃんとしていても、サーフィンを真ん中にして生きることもできるんだつてことを知れてラッキーでした。

深町さんもいらつしゃつていましたが、テレビの中の人つていう感じじゃなくて普通の先輩みたいに接してくれました。あ、そうそう、有名な相撲取りの方も来てたり、今じゃ考えられないメンツばかりだったなあ。

糸島でサーフィンしなかったら、まったく違う人生だったでしょうね。それまで考えていたことが全部ぶつ壊されました。頭の芯からパカーンと割られたような。いろんな業界の人と会わせてもらつて、お金じゃない、ホントにいいものももらいました。

おまえ、フツーじゃないな

林さんと出会って、音楽の面白さも教えてもらいました。それまでテレビで「ミュージックフェア」とか見てる程度の知識しかなかったから（笑）。「これがレゲエばい！」って聴かせてもらったときは「なん、これ？」って衝撃を受けましたね。いろんなライブにも連れてってもらったし、ちよつとDJかじってみるくらい音楽にハマりました。

林さん、サンセットライブの出演者を選ぶ意味もあってライブによく足を運んでましたけど、有名とか無名とか関係なくて、自分が体感して「いい！」と思った音だけにしか反応しないんです。「いいらしい」と聞いて行ってみても「噂の範疇を出とらんね」とか自分の耳しか信じてなかったですね。

もちろんサンセットライブもスタッフとして手伝って：たかなあ（笑）。サボってばかりだったんですね。ライブの途中でも、波が良かったらこつそりサーフィンしていました。林さんから「花田、どこおる？」と探されているのに海の中にいたり（笑）。今でも林さんから「おまえ、フツーじゃないな」って言われま

す。  
印象に残っているサンセットライブは二見ヶ浦最後の年の、U Aさんとか出ていたライブですね。一番熱気に包まれてたんじゃないですか？ 何かが変わる予感に満ち溢れていましたから。それから芥屋に移って大爆発した感じですよ、サンセットライブって。

面白い客しか相手にしたくない

「サンセット」では4年くらい働いたんですが、移転した店で1シーズンだけ働いて辞めました。林さんって人は相変わらず面白いんだけど、糸島ブームが始まったせいか、普通のおじちゃん、おばちゃんが店に来るようになって、あの、いつもヒマな「サンセット」が、いつも忙しい店になっちゃって。「なんか、ちがうな？」って感じになってきました。20代半ばで反骨精神もあつたんでしょね。俺、面白い客しか相手にしたくね〜とか思っちゃったのが辞めた理由の一つです。今はそんなこと思いませんよ（笑）。

もうひとつ、ロングボードの九州大会で優勝して、調子に乗ってプロサーファー目指そうと思っていたのもあります。林さんから「おまえショートはセンスないからロングやれ」ってアドバイスされてからロングボードやり始めたんですけど、みるみる上達しちゃったんです。毎日サーフィンするならプロになるしかないって思って「サンセット」を卒業させてもらいました。

## エブリデーサーフィンのために

「サンセット」を辞めてからは、居酒屋さんで夜働いて、朝からサーフィンするみたいな生活を3年くらい続けていました。その頃、付き合っていた今のカミさんから「結婚してみる？」といわれたので「じゃ、してみようか」ってことで結婚しました。

僕は「プロになって世界を回る」みたいなこと言ってたんですが、カミさんから「プロになって若いうちだけサーフィン漬けになるのもいいけど、それより仕事しながら年取ってから永続的にサーフィンできる方がいいんじゃない？」って言われたんです。たしかにそうなんですよね、欲しいのはお金や名誉じゃなくて、エブリデーサーフィンなんだから。

糸島で店をやるうか？ いや、オーストラリアに花田村を作ろうか？ とかいろいろ考えたんですが、結局糸島で店を探し始めました。しばらくして「アンティカ・マリーナ（現カレント）」がオープンするときに遊びに行ったら、林さんから「となり、空いとるばい」って教えてもらったんです。それで調べたら、たまたま土地が親戚の持ち物だったんですね。糸島には母方の親戚が多かったんですけど、たまたま（笑）。まだ山のまんま敷だらけの土地だったから、開墾から店づくりが始まりました。木材集めてきて柿渋塗ったり、手作りで頑張りました。たまたま、実家が庭屋さんなので石とかもらったりして。まあ、「たまたま」が多い人生ですね。「サンセット」で働き始めたのも含め、たまたまの連続で、たまたまここまで来ちゃったみたいいな（笑）。いつ、たまたま死んじゃってもおかしくないな（笑）。

## 何も無い糸島で、何かを見つける

林さんって半分テクトーなんですけど、先見の明がありますよね。それを僕は「鷹の目」と言ってるんですが。たぶん面白い人たちと付き合い合ってるから情報がキャッチするのが速いんだと思います。ほんつとオモシロイネタをたくさん運んでくれますから。で、僕はおいしいとこだけもらってます（笑）。あと、糸島の事件、事故などのニュースも東スポなみの速さですよ（笑）。

林さん、とにかく好奇心が強くて、いろんなことに興味を持つんですけど、何でも自分で触って経験しないと満足しないんです。だから話が浅くない。林さんは「いいっちゃない？」じゃなくて「よかつたぜ！」って言うんです。「五右衛門風呂があるつちえ！」って言いながら、勝手に他人の家の中を見に行ったり、「気持ちいいとこあるぜ！」と山の上に連れて行かれたり。林さん、いろんなことを発見して教えてくれるんです。当時、名産も温泉もない糸島で、何かを見つけよう

としていたんだと思います。糸島にしかない独自の面白さを探していたんだらうなと思います。ま、林さん、あの頃ヒマだったんで、いつもブラブラしてましたから（笑）。

## みんなに「ありがとう」を言える人生

カミさんからよく言われるんですけど「20年変わりなく続けているのってサーフィンくらいね」って。もう自分の宗教に近いですからね、サーフィンは。サーフィンばかりやってるので、林さん、ずっとかわいがってくれているんだと思います。「いい波立つとつたぜ！ おまえ、どこ行つとつたんよ」とか、20年間、ずっとサーフィンの電話がかかってくるんです。そんな林さんは、間違いなく僕の生き方の師匠ですね。僕、20代半ばから毎年店を休んでモロッコに通ってるんです。大西洋って波がいいんですよ。それも、林さんが毎年インドネシアにサーフィンに行っていた影響です。「遊ぶときは遊ぼうや」って、いつも林さんが言うてましたから。

林さんとは、ずっと遊んでもらいながら、たくさんのことを教わりましたが、林さんもいろんなサーファーの人たちに教えられたんじゃないですかね。林さんも、若い頃は、なかなかロクでもない人生を歩まれていたみたいなんで（笑）。林さん、反面教師としても優秀ですからね。しょっちゅう「ああ、林さん怒られるなあ」と思いながら、同じ失敗をしないようにと心がけています。

林さんも、僕も、やっぱりサーフィンに救われた人間なんです。だから、毎日サーフィンをやっていたい。僕ら、いつだってエンドレスサマーを追いかけたいんです。そこがブレたら、林さんも、僕も、死ぬときじゃないかな。

サーフィンのおかげで、いろんな人たちとの出会いのおかげで、本当に最高の人生を歩ませていただいていると思います。出会ってきた人みんなに「ありがとう」って言えますよ。